

カブ通信

～組ハイク＆東日本大震災募金活動（２回目）
＆巣箱のその後（鳥が住んでいたぞ！）～

No：9 平成23年 6月12日発行
川崎第46団カブスカウト隊
発行責任者：久保井隊長

組ハイク報告

～初夏の陽気を浴びて～

1組は4月29日に豪徳寺界限、2組は5月8日に唐木田から小山田緑地までを、それぞれ組ハイクを実施しました。事前の計画に始まり、下見の実施、そしてハイクのまとめに至るまで、DLには大変御負担をおかけしました。御協力頂きまして、ありがとうございました。

以下、2組の報告をお伝えします（1組は次号に掲載）。

5月8日、ゴールデンウィーク最終日の晴天の日に、CS2組の唐木田ハイクはスタートしました。4月10日の下見の時は、桜は咲いていましたが、観察予定のアサザ池はまだ時期ではありませんでした。写真はコブシの花の様子です。

ハイク当日、新緑の「よこやまの道」を歩いていくと、見事に池を埋め尽くしているアサザが。



スカウト達も夢中でアサザと大量発生のおたまじゃくしを観察します。

R S 隊世帆さんにいい香りの草を教えてもらったり、



本物の鳥の巣を発見しました。

小山田緑地のビジターセンターでは、緑地で見られる草花や昆虫、鳥について、たくさん知ることができました。楽しみにしていた吊り橋を渡った後は、公園広場でお昼ごはんを食べ、パノラマになる風景画を描くとともに、「母の日」に心を込めて、それぞれのお母さんに葉書を書きました。

とても暑い1日でしたけれど、途中で水分補給をしなが

ら最後までみんな元気にハイクができました（岩崎DL）。



東日本大震災募金

～被災者の気持ちになって～

東日本大震災から3ヶ月が過ぎました。そして、依然として原発の収束が見えない日が続いています。

巨大地震と大津波で15,000人を超える尊い命が失われるとともに、いまだ行方不明者は8,000人を超えるなど甚大な被害となりました。

被災地の復興については少しずつ進みつつある状況にありますが、内閣不信任決議を巡って翻弄された日本の社会は、世界からどのように見られているのか、とても不安に感じるのは私だけでしょうか。

さて、6月5日に時間と場所は前回と同様で、2回目となる大震災の義捐金募金活動を行いました。この日は天気に恵まれ夏日となりましたので、やや緊張感に欠けるスカウトが目に残りました。2時間の募金活動は体力的に難しい面もあると思いますが、一定程度の我慢強さを持って欲しいとも



感じました。



今回も多くの
方々から募金受け、
一方では、阪神大震
災を上回る義捐金
が集まっているに
もかわらず、未だ
に十分に被災者に

渡されていない状
況から、募金でお金を集めるだけではなく、被災者に届
けるところまで行くべきだと、ご意見を頂きました。こ
うした状況からも、今回は日本赤十字社へ義捐金を届ける
ことではなく、直ぐに被災者のために有効活用を図っ



てくれる市や町に
送ることを現在、検
討しています。スカ
ウト自身が、どこに
届けたらよいのか、
インターネット等
を用いて調べるこ
とも大切な活動と

考えています。節電を始め無駄を省くその行動こそ、カ
ブ隊のさだめの実践につながります。カブスカウトの間
は保護者の協力が必要となりますので、日頃から家庭で
の取り組みについて継続的に行えるように、よろしくお願い
します。

今回の募金総額は約18万5千円となりました。式典
当日も募金箱を設置しますので、併せてよろしくお願いします
(北村副長)。

鳥が住んでいたぞ～！

～ 巣箱の観察をして～

6月5日、団集会(大震災募金活動)を午前中で終え、
2月27日に創作センターに設置した巣箱を観察しに
行きました。巣箱を
利用する
代表的な
鳥に、シジ
ュウカラ、
スズメ、ム



クドリなどがいます。巣箱を作る際、巣穴の大きさを変
えることによりどの鳥が利用してくれるかが決まります
。

日本各地で木のほら穴に巣を作る鳥は、大きな木が少
なくなり巣を作る場所が減り困っています。「鳥も人も
住める地球に！」。私たちが活動するこの生田の地でそ
れを実現するために鳥たちが安心して子育てのできる
環境作りが何よりも大切です。

スカウトたちが、2回の隊集会で完成させた「鳥たち
が安心して子育てが出来る家＝巣箱」。巣箱の巣穴の大
きさは約3cmです。

どんな鳥が利用してくれているのでしょうか。

「チュン、チュン」、「ツッピー、ツッピー」

「チーチュルチーチュルチーチーチュルチー」

ここ創作センターには何種類もの鳥たちが訪れます。

目を閉じて、耳を
澄ませば・・・。

黒い帽子に黒
いネクタイ姿の
小鳥が巣箱に留
まっています。

「ツッピー、
ツッピー」

私が5月14日に観察した時には、巣箱にお客様はい
ませんでした(少し焦りました...)。

どうやら1組、2組の作った巣箱は、安心して子育
てが出来る居心
地の良い家だっ
たみたいですね。

これからも創
作センターの近
くに寄った際に
は、可愛らしい
訪問客を観察し

てください(足音立てず、忍び寄りで!)(若島副長)。



40周年記念式典まで1週間を切りました。カブ隊
は「足がら山物がたり」を演じます。うさぎの「ヤト」、
しかの「ジロツボ」、くまの「月の輪」が登場し、制服
に着用する進歩記章のシンボルとなりました。カブコ
ールやBS隊へ上進する前のスカウトを「月の輪」と
呼ぶこと、金太郎の歌が多いのもこの物語があつての
ことです。一人ひとりが役割を發揮して素晴らしい舞
台となりますよう御協力・応援をよろしくお願いいたします。

